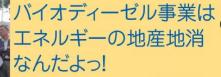
運輸会社が バイオディーゼル燃

製造事業に挑戦

大村の運輸会社が「廃食用油」を、「資源 転換する「バイオディーゼル燃料(BDF 造事業」に取り組んでいるという情報を得て 速取材に行って来ました。この日は推進員 修会で、プラント見学が行われ、推進員さん 味津々の様子でした。







町内会に置いてもらっている

バイオディーゼル燃料で動いてます。

現在、大村市での回収は事業系廃食用油に限られていますが、家庭系廃食用油の回収もモデル検 証を平成25年12月から室の原2丁目町内会の協力のもと、同収を行っています。同収量は事業系 が17万リットル/年、家庭系が180リットル/年(モデル検証:見込)となっています。

、そも、そも、パイオディーゼル燃料って何?

そもそも、バイオディーゼル燃料とは何なのでしょう。今回プラント見 学をさせて頂いた株式会社村里運輸の西澤さんに伺いました。「バイオ ディーゼル燃料とは、菜種油やヒマワリ油、大豆油などの生物資源由来のディ

ーゼル燃料のことです。このプラントでは、天ぷら油などの廃食用油を使っていますよ」とのお話。今ま で捨ててしまっていた天ぷら油を資源として活用し、燃料として活用するとは、なんてエコなんでしょう!







コンパクトなブラントに最新設備を投入 九州一の精製能力規模を誇ります

実際に目の前でティーゼルボンシンを バイオディーゼル燃料で動かしてみました。 推進員さんと一緒に見学しました!

大村エリア「エネルギーの地産地消」

株式会社村里運輸のバイオディーゼル燃料の製造利用システム

国内の廃食油の発生量は40万t/年であり、このうち飲食店や食品工場から発生する事業系廃食油26万t/年につい ては回収され、飼料や石鹸原料として有効利用されています。残りの 14 万t/年については、一般家庭から発生すると考 えられ、仮にその全量が回収されてバイオディーゼル燃料に転換されたとすると、約16万キロリットル/年(原油換算量 15 万キロリットル/年)となります。しかし、現状では、京都市をはじめとする各地域での取組があるにもかかわらず、回収・ 利用されている量は、原油換算で 0.5 万キロリットル/年程度でです。運輸事業者であるため沢山のエネルギーを使って 事業を行っている村里運輸は、この様に自分たちが地球に負荷をかけている状況を何とか打破できないかと試行錯誤し、 ブラントを立ち上げ廃食用油(なたね油、大豆油、キャノーラ油など植物性食用油)を回収し、バイオディーゼル燃料として 精製。それを自分たちが運行しているトラックに活用する「エネルギーの地産地消」のシステムを構築したのです!

出典;全国油脂事業協同組合連合会







温水で数回洗浄/脱水する

とで粘り気や引火点を低くし、ディーゼル車で利用できる

D

バイオディーゼル燃料完成

つかう

麻食用油

平成25年3月~平成26年2月の1年間で132tのCO を削減(東京ドーム3.4個分の植林に相当)しました。







お話を伺った村里運輸の西澤さん。「まだまだこのパイオディーゼル燃料というも の自体、あまり皆さんご存知なく、捨てられている天ぶら油が沢山あるのではない かと思います。身近にある資源を活用して、自分たちのエネルギーを自分たちで 作れるようになったらいいですね。」と、最後に笑顔で話していただきました。



08